ウルスリのすず

ゼリーナ・ヘンツ　文　アロイス・カリジェ　絵
大塚　勇三　訳
岩波書店　１９７３年　２４１５円
１冊　２５×３２cm

ずっと遠くの高い山やまのその奥の、小さな村にウルスリは住んでいます。いよいよ明日は鈴行列のおまつりです。大きな鈴を借りて一番先頭を歩きたいと思っていたのに、ウルスリは小さな鈴しか借りることが出来ませんでした。ウルスリは、山の夏小屋においてある大きな鈴のことを思いつき、一人でそれをとりに出かけました。ようやく小屋にたどり着きましたが、疲れて眠り込んでしまいました。両親や村の人たちが心配してウルスリを探しまわりますが･･･。スイスの絵本作家カリジェは、山の自然の美しさ、厳しさ、山の子どもの暮らし、喜び、悲しみをいきいきと描き出しています。この『ウルスリのすず』もアルプスの山の生活と空気が、読む人に伝わってくる見事な作品です。

おおかみと七ひきのこやぎ

グリム童話
フェリクス・ホフマン　え　せた　ていじ　やく
福音館書店　１９６７年　１３６５円
３２ページ　２２×３１cm

森へでかけることにしたおかあさんやぎは、こやぎたちに、留守の間、おおかみには十分気をつけるように言いました。ところがずるがしこいおおかみは、用心深いこやぎたちをだまして、まんまと家の中に入り込み、こやぎたちを食べてしまいました。時計の箱に隠れていた末のこやぎだけが助かり、おかあさんやぎと一緒に、寝ているおおかみのお腹を切り裂き、こやぎたちを助け出して、かわりにお腹に石をつめておおかみをやっつけました。
ホフマンの落ち着いた色合いのリアリティあふれる絵が、よく知られたこのグリム童話のストーリーを丁寧に描き出します。子どもたちはこの絵とともに、知恵くらべと逆転劇の物語を何度でも楽しむことでしょう。